

表現運動の指導意欲に差のみられた2クラスの比較考察

—平成29年度「体育A」表現運動の授業実践から—

茅野 理子

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日

表現運動の指導意欲に差のみられた2クラスの比較考察[†]

—平成29年度「体育A」表現運動の授業実践から—

茅野 理子*

宇都宮大学教育学部*

本研究の目的は、小学校教科3回の実技において、授業後指導意欲が大きく伸びたクラスと停滞したクラスを比較することにより、有効な実践的指導力の修得に関して、事例考察をさらに深めることであった。その結果、以下のことが考察された。指導意欲には、性差、中学校時のダンス経験、ダンス好きが関連している。授業を通して、「楽しさ」を感じ、そこから「できる」につながり、指導意欲を形成していく過程が示唆された。

キーワード：表現運動、動機づけ、指導意欲、実践的指導力、教員養成課程

1. 研究の背景

中学校2年生までのダンス必修が平成24年度から完全実施となった。しかし、現職教員のダンス指導力に課題があり、対応が十分でないという多くの指摘がされている中村:2009,2010,宮本:2015。筆者の調査(2013)からも、指導の際に障害になることとして、創作、現代的なリズムなどのダンス内容に関わりなく、「生徒が動かない」、「自分で動いてみせられない」などが上位に挙がってきている。

このような課題と小中の接続を考慮すると、小学校における表現運動の指導は、重要な鍵となると思われる。

先行研究(全国舞踊研究会,1994)によると、実践的指導力を形成する3要因(大学時履修経験,教職経験,環境要因)のうち、履修経験は、「ダンス観,指導観,指導能力などに影響を与え,指導実践をおこなわせる原動力になる」(p.9)ことを指摘し,1年以上の履修期間が有効であると示唆している。

しかし、現実的には、小学校教員養成の場合、履修期間は半期以下の場合が多い。

これらのことを踏まえて筆者は、有効な実践的指導力の修得に関して事例考察を深めることを目的として、3回の授業実践を通し、受講生のダンス観や

指導意欲に変容はみられるか、体得できる指導技術とそうでない指導技術とはどのようなものか、授業内容が指導意欲にどのように関連しているのかを明らかにしようとした(2016)。その結果、学生は、3回の実践であっても、楽しさや教育的意義を実感し、指導意欲が高まることが認められたが、指導技術の明らかな定着や指導における「難しい」という意識の払拭については課題が残った。また、この研究からは、指導実践を促す要因の検討については十分な成果が得られていない。

そこで、さらに対象を変えて調査を行ったところ、同じ日に同じ内容の授業を行ったにも関わらず、指導意欲に大きな差が出たクラスがみられた。

このような研究の背景を基に、本研究の目的は、授業後指導意欲が大きく伸びたクラスと停滞したクラスを比較することにより、有効な実践的指導力の修得に関して、事例考察をさらに深めることである。

2. 研究方法

(1) 調査対象

平成29年度本学部小学校教科「体育A」の4クラスのうち、3回の授業を同じ日に行った1・2時限クラスと3・4時限クラスの受講生のうち、調査の趣旨に賛同し協力を得た受講生を対象とした。分析対象数は、データに欠損のなかった授業前1・2時限36名(男子18,女子18)、3・4時限43名(男子16,女子27)及び、授業後1・2時限36名(男子18,女子18)、3・4時限42名(男子16,女子26)である。

[†] Masako CHINO*: Comparison of Two Classes about the Difference in Instruction Will of Expressive Movement

* School of Education, Utsunomiya University
(連絡先: chinom@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

(2) 調査時期

調査は表現運動の授業直前、授業直後の2回実施した。

(3) 調査内容

①授業前：性別、体育・スポーツ及びダンスに対する意識、ダンス経験、指導への意欲

②授業後：性別、本授業で印象に残った内容、体験できたと思う指導技術、指導への意欲

調査内容は、松本、高橋ら（1994）の調査に準拠し、予備調査を踏まえて新たな項目を補足した。

(4) 統計処理

集計はExcelで行い、分析はクロス集計とt検定、 χ^2 検定を行った。また、自由記述をテキストマイニングにより分析し、質的考察をあわせて行った。

(5) 指導意欲について

授業前後の指導意欲は、図1、2に示すとおりである。1・2時限クラスは授業前指導意欲有り（指導したい・できれば指導したい）が50%であったのが、授業後は61.1%と、伸びが少なく、3・4時限クラスは30.2%から66.7%と大きく伸びている（1%水準で有意差有り）。

3. 結果及び考察

(1) 学生の実態（授業前調査から）

1) 性別

性別は、前述したように、1・2時限は男女が各18名と同数であり、3・4時限は、男子37%に対し女子が63%と多いクラス構成であった。

そこで、男女で指導意欲に差があるかどうかを確認したところ、図3に示されるように、1・2時限では女子の方が、有意に指導意欲が高いことが認められた（ $p < 0.01$ ）が、3・4時限では男女に差はなかった。

2) 体育・スポーツへの意識

体育に対する意識（好き嫌い）と、スポーツに対する意識の結果は、体育に対しては、3・4時限の方に若干「好き」が多く見られ、スポーツに関してはほとんど同様の意識であった。

3) ダンスの特性に対する意識

ダンスの運動特性である、踊る、創る、観るに対して、授業前にどのような意識をもっているのかを調査し、表1にまとめた。踊ること、創ることにに対しては、両クラスともに「嫌い」の方が多い。特に創るについては、8割の受講生が「嫌い」と回答している。いずれも3・4時限の方がやや抵抗を感じていることが認められる。逆に、観ることに

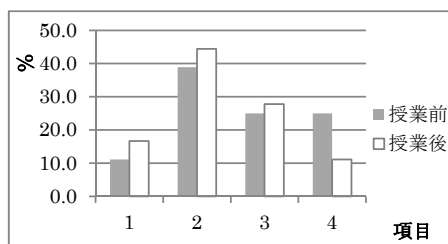


図1. 指導意欲の変容：1・2時限

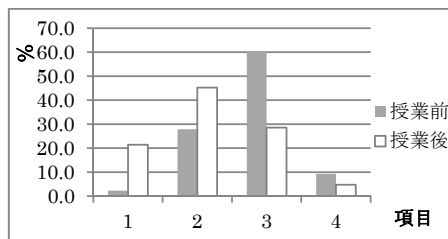


図2. 指導意欲の変容：3・4時限

1：やってみたい 2：できればやってみたい
3：あまりやりたくない 4：やりたくない

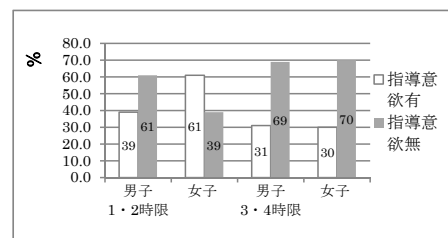


図3. 指導意欲の男女比較

表1. ダンスの運動特性への意識 (%)

		踊る	創る	観る
1・2時限	好き	44.4	19.4	83.3
	嫌い	55.6	80.6	16.7
3・4時限	好き	39.5	16.3	86.0
	嫌い	60.5	83.7	14.0

表2. ダンス経験 (%)

		小学校	中学校	高校
1・2時限	ない	25.0	30.6	41.7
	ある	75.0	69.4	58.3
3・4時限	ない	23.3	7.0	51.2
	ある	76.7	93.0	48.8

は8割強が「好き」と答え、3・4時限がやや多い。

4) ダンス経験

1・2時限と3・4時限で明らかに異なるのは、中学校でのダンス体験である。1・2時限はあると回答した割合が7割であるのに対し、3・4時限は9割を超えている（表2）。

経験内容を詳しく見ていくと、いずれも授業での

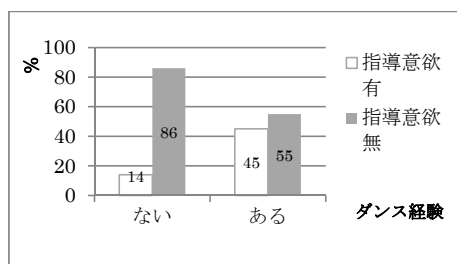


図4. 中学校時のダンス経験の有無と指導意欲

経験が多い(56%, 63%)。

次に、ダンス経験の有無が指導意欲に影響を及ぼしているかどうかについて中学校時ダンス経験から検討してみると(図4)、経験無が指導意欲無に相関していることが認められた(χ^2 検定により5%水準で有意差有り)。このことがダンス理解や技能の上で影響を及ぼしていることが考えられる。なお、中学時にはダンス経験がなく、高校時にあると回答した4名は、指導意欲がなく、ダンス経験が中学、高校時ともないと回答した10名のうち指導意欲を示したのは2名(できれば指導したいと回答、いずれも男子)であった。

5) 指導技術に関する自己評価

表現運動の指導技術について、「まったくあてはまらない」から「とてもよくあてはまる」まで6件法で回答を得、1~6点で点数化した平均点を表3に示した。これをみると、いずれも女子の方が得点が高く、前述のダンス経験の差が反映されている。

(2) 学生の意識の変化(授業後調査から)

1) 性別

男女での指導意欲の差について、授業後確認したところ、男子ではどちらも10%程度の増であったが、女子では1・2時限が2倍、3・4時限は2.5倍指導意欲が増加している(図5)。また、1・2時限目に男

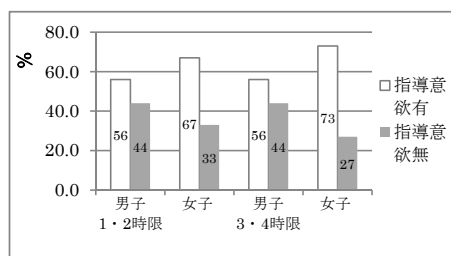


図5. 指導意欲の男女比較

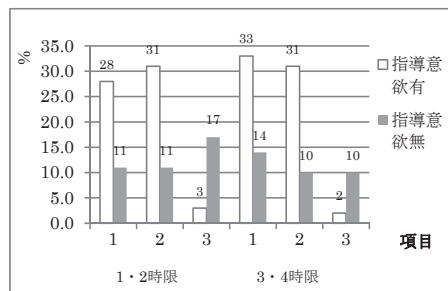


図6. 意識の変化と指導意欲

1:変化無(好き) 2:好きに変化 3:変化無(嫌い)

女の指導意欲について有意差はみられなかったものの、3・4時限目は5%水準で有意差があった(χ^2 検定)。このことから、性差が指導意欲に関連していることが推測される。

2) ダンスに対する意識の変化と指導意欲

図6は、ダンスに対する意識の変化と指導意欲の関係を見たものである。授業後嫌いから好きに変化したのは、1・2時限15名、3・4時限17名であった。一方、嫌いのまま変化しなかったのは、1・2時限7名、3・4時限5名であり、嫌いに変化した受講生はいなかった。

この結果から、ダンス好きと指導意欲の必然的な相関が示唆されたが、特に授業を通してダンスを好きになった学生の指導意欲の割合が高くなることが認められた。

3) 自己評価による体得できた指導技術と指導意欲

表3. 表現運動の指導において「できる, わかる」と回答した指導技術の平均点と男女の比較

	授業構想	学習内容	助言	評価	表現創作	リズム	示範	多様化	極限化	ひと流れ	
1・2時限	男子	1.89	2.33	1.83	2.11	2.22	2.61	2.22	1.89	2.06	1.78
	女子	3.33	3.5	3.11	2.72	3.61	3.77	3.33	3	3	2.67
3・4時限	男子	1.94	2.56	1.88	1.88	2.25	2.88	2.38	1.94	1.88	1.81
	女子	2.19	3.07	2.44	2.3	2.7	3.78	3.15	3.48	2.44	1.96

表4. 自己評価による体得できたと回答した指導技術の平均点と指導意欲

	授業構想	学習内容	助言	評価	表現創作	リズム	示範	多様化	極限化	ひと流れ	
1・2時限	意欲有	3.23	3.32	3.18	2.91	3.55	3.64	3.32	3.14	3.41	3.18
	意欲無	3.29	3.07	3	2.71	3.07	3.29	3	2.93	3.14	3.14
3・4時限	意欲有	3.43	3.5	3.24	2.82	3.36	3.68	3.36	3.24	3.29	3.11
	意欲無	3.29	3.43	3	2.64	3.21	2.93	3.07	3	3	3.07

Comparison of Two Classes about the Difference in Instruction Will of Expressive Movement

Masako CHINO